

第1回「自動車整備技術の高度化検討会」

汎用スキャンツール標準仕様に対するツールメーカーの対応状況

平成 23 年 8 月 2 日

社団法人 日本自動車機械器具工業会

故障診断分科会

1. 汎用スキャンツールの標準仕様の概要

平成 22 年度の「汎用スキャンツール普及検討会」にて提案された汎用スキャンツールの標準仕様を図1に示す。

標準仕様の策定に於いては整備事業場のニーズを層別調査し、相反する機能と価格のバランスを考慮して、基本機能に拡張性を持たせる仕様とすることで多様化する整備事業場のニーズに応えられるものとなっている。

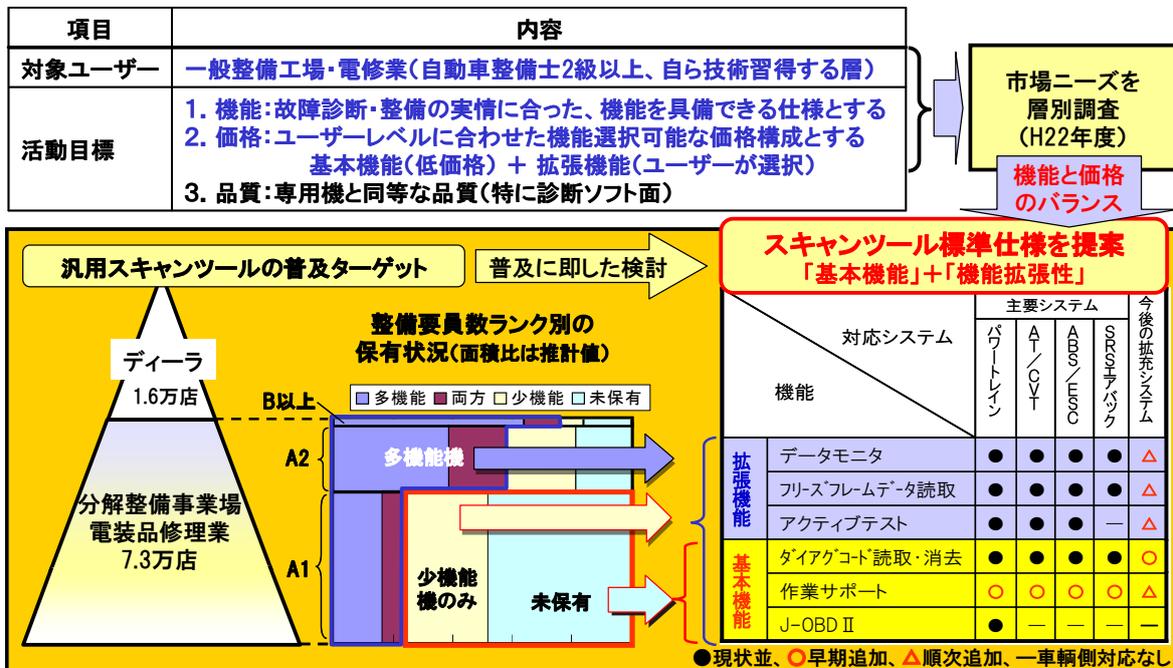


図1 汎用スキャンツールの標準仕様

【残された課題】

標準仕様に、基本機能と拡張機能の概念を設定したが、具体的にどのシステムまで対応すべきかの結論には至っていないため、本年度の6月より作業サポートやダイアグコード機能のシステム拡充について、自工会と連携した検討を開始している。

標準仕様に準拠した試作機により市場調査を行い対応システムの範囲や活用研修の内容について検討を進めていきたい。

2. 標準仕様スキャンツールの開発状況

平成23年6月15日～17日に開催された「第35回オートサービスショー2011(主催:社団法人日本自動車工具協会)において汎用スキャンツールの標準仕様化への取組状況を社団法人日本自動車機械器具工業会のブースにてテーマ展示を行った(図2)。

本ブースでは4社が出展し、2社が標準仕様を意識した新製品を展示していた(図3)。



図2 自機工の展示ブースの様子

	システム構成	標準仕様機の出品例	
タイプ1	<p>VCI方式(PC連携)</p> <p>基本～拡張機能</p>	VCI本体	
タイプ2	<p>単独・VCI併用方式</p> <p>拡張機能</p> <p>基本機能</p>	VCI本体	

図3 標準仕様機の種類

タイプ1は、通信インターフェース(VCI)方式で、本体には操作・表示部を持たず、パソコンとセットでスキャンツールを構成しており、基本機能と拡張機能の区別は、パソコンソフトの機能を基本機能と拡張機能に分け、基本機能のソフトの価格を抑える工夫をしている。

タイプ2は、VCI に操作・表示機能を持たせ、基本機能は単独使用を可能としている点がタイプ1との違いである。拡張機能を使うには同様にパソコンと連携させて使用する。

展示会場には上記タイプ他、少機能機の作業サポート機能を対応させたものや、ダイアグコード読出・消去機能をパワーレーン以外のシステムにも対応した製品が展示されており、標準仕様の基本機能に対応した製品も展示されていた。

【今後の課題】

整備事業場は自社の作業内容に合わせたスキャンツールを選ぶ環境が整い始めているが、ソフトウェアの充足が課題となっており、標準仕様機の実証調査に向けて作り込みを急ぐ必要がある。

以上